

2023年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [吉田翔胡]

学年・組・番号 [2年 I組 16番]

研究課題: ハンセン病問題の継承と教育～若年層の視点から～

(英文) A Research of Human Rights Issues Related to Hansen's Disease

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

動機: 1年時、相川翼先生(公民科)の授業を受けてハンセン病問題を深く学び、様々な課題について問題意識を持ったこと。

目的: ハンセン病は感染力が弱く完治する病気であるのにも拘わらず、現在まで患者やその家族は甚だしい偏見差別にさらされてきたが、若年層を中心にこの問題が風化しつつある。4月に相川翼先生(公民科)の課外授業の一環で元患者の家族との交流を行ったが、本研究ではさらに学びを深め、直接の関わりがない高校生として、問題自体とその継承・教育について論ずる。

計画・方法: 国立ハンセン病資料館・多磨全生園・草津への巡検及び現地の人との交流によるハンセン病問題についての検討及びそれに関する人権課題の考察(成果は学芸発表会で発表)。

今後の予定: 巡検日程などの調整、事前調査(5～6月)→巡検(7～8月)、学芸発表会発表、学院祭発表→人権課題に関する考察(9～11月)→研究成果報告書の提出、学院論文集掲載

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

本研究では国立ハンセン病資料館・多磨全生園・群馬県草津町(栗生楽泉園・重監房資料館・栗生楽泉園社会交流会館・湯の橋・聖バルナバ教会・その他関連の場所)への巡検、ハンセン病元患者家族との交流、第七回沖縄愛楽園交流会館教員向け講座の受講及び修了証受領、学芸発表会での発表等を行った。国立ハンセン病資料館・多磨全生園では相川翼先生、群馬県草津町では黒尾和久氏(重監房資料館部長)のガイドのもと巡検を行い、周辺知識なども知れ、有意義な時間を過ごすことができた。また元患者家族との交流では、相川翼先生の仲介で早稲田大学高等学院に招き、当事者の切実な思いを感じとることができた。また想像を超える差別の実態を知り、ハンセン病問題に対する意識を新たにした。学芸発表会では約40名の聴衆がいた中、わかりやすく、誤植がないように問題意識を持ってもらえるよう努力した。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 2年 I組 吉田翔胡

研究分担者 2年 I組 周瑞恩 2年 I組 西野亮祐 2年 I組 芳賀寅之介

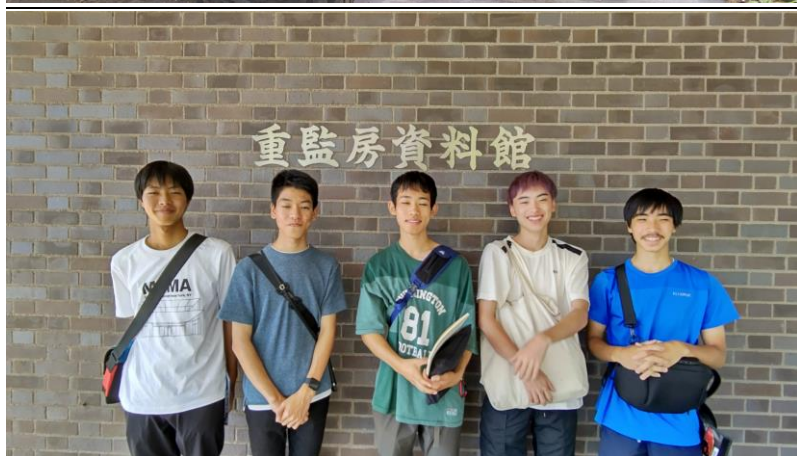
2年 H組 山地海翔

担当教諭 川田泰之 先生 (受給額: 35000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上